2023 年 6 月 16 日
北陸電力株式会社

安全と公正・誠実を誓う日

私たちは、1999 年（平成 11 年）に志賀１号機で起こした臨界事故を 2007 年まで公表してこなかったという大きな失敗について、この失敗の教訓を語り継ぎ、原子力安全を最優先に、公正・誠実に業務を実施してまいります。

「安全と公正・誠実を誓う日」の制定

当社は、1999 年６月 18 日に定期検査のため停止中であった志賀１号機において想定外の臨界事故が発生したにもかかわらず、報告・公表を行いませんでした。

その後およそ８年が経過した 2007 年３月 15 日に本事故を公表し、社会から「臨界事故隠し」と大きく取り扱われました。

当社は，臨界事故を受け，隠さない企業風土づくりや安全文化の構築等の再発防止対策に継続的に取り組んでいるところでありますが、公表から 15 年以上が経過しており、発電所員の中でも当時の状況を直接経験していない世代も増加してきています。

臨界事故隠しを行った事実を今後も風化させることなく、未来永劫受け継いでいくため、６月 18 日を「安全と公正・誠実を誓う日」と定め、式典「失敗の教訓を語り継ぐ」を行うこととしました。（2023 年６月）

アーカイブエリア「失敗の教訓を語り継ぐ」の設置

2023 年度 安全と公正・誠実を誓う日（６月 18 日）を迎えるにあたり，志賀原子力発電所事務本館１階に臨界事故及び事故隠しに関連する資料を常設展示するためのアーカイブエリア「失敗の教訓を語り継ぐ」を設置しました。

モニュメント「誓いの響き」の設置

アーカイブエリア中央には，所員の心を一つにし、安全の誓いをたてる際に打つ金属製のモニュメント「誓いの響き」を設置しました。「誓いの響き」は、社長の想いである「仰天不愧」（ぎょうてんふき）」の言葉を刻印した「鰐口（わにぐち）」（別名：「金口」、「金鼓」）からなるモニュメントで、当発電所の廃材を一部再利用し、鋳造にて製作しました。「誓いの響き」を打つことで、臨界事故隠しを決して風化させないという決意を一人ひとりの心に刻み、臨界事故隠しの事実の浸透を図ります。

○「仰天不愧」（ぎょうてんふき）
天を仰ぎて愧じず。自分の心や行動に少しもはじるところがない。公明正大で心にやましいところがない。

○「鰐口（わにぐち）」（別名：「金口」、「金鼓」）
仏堂の正面軒先又は神社の社殿に吊り下げられた銅鑼を２枚合わせたような円板状の青銅製の鼓。参拝者は、鼓面を打ち誓願成就を祈念する。邪気を祓い清める意がある。

2023 年度 式典「失敗の教訓を語り継ぐ」の実施

2023 年 6 月 12 日、式典「失敗の教訓を語り継ぐ」を行いました。式典では、松田社長が「誓いの響き」を打ち、参加者全員が安全と公正・誠実を誓いました。松田社長は「全員で当時のことを再認識し、過去にこういう歴史があったことの重みを、強く心に刻んでください。そして、安全と公正・誠実を誓ってほしい」と訓示しました。

■松田社長 訓示

■「誓いの響き」を打つ様子